

1.	④	11.	④	21.	①	31.	②	41.	③
2.	①	12.	①	22.	①	32.	③	42.	②
3.	④	13.	③	23.	③	33.	③	43.	④
4.	①	14.	④	24.	②	34.	②	44.	④
5.	④	15.	④	25.	③	35.	③	45.	②
6.	①	16.	①	26.	①	36.	①	46.	①
7.	②	17.	③	27.	②	37.	③	47.	④
8.	③	18.	③	28.	②	38.	①	48.	①
9.	③	19.	③	29.	④	39.	②	49.	④
10.	④	20.	④	30.	①	40.	④	50.	④

1.

解答 ④

【解説】

正解は④「～に登る」です。climb は、手足を使って山や木、階段、はしごなどを「登る」動作を表す動詞です。Monkeys are good at climbing trees. (サルは木登りが得意です) のように使います。①

「～から下りる」は go down や climb down、②「～を飛び越える」は jump over、③「～を滑る」は slide がそれぞれ適切な表現です。

◆補足：climb の最後の b は発音しない黙字（サイレントレター）です。発音は「クライム」となります。同じように mb で終わる単語には comb（くし）、thumb（親指）、bomb（爆弾）などがあり、いずれも b は発音しません。

2.

解答 ①

【解説】

正解は①「肩」です。shoulder は、首の付け根から腕の上部にかけての部分指します。My shoulders feel stiff. (肩が凝っています) のように使います。②「ひじ」は elbow、③「ひざ」は knee、④「首」は neck です。体の部分を表す単語は、実際に自分の体を指しながら覚えると記憶に残りやすいですよ。

◆補足：肩は左右に一つずつあるので、shoulders と複数形で使われることがよくあります。「肩をすくめる」というジェスチャーは shrug one's shoulders と言います。また、shoulder bag（ショルダーバッグ）のように、他の単語と組み合わせることも多いです。

3.

解答 ④

【解説】

正解は④の **look like** です。That cloud looks like a ship. (あの雲は船のように見えます) のように、視覚的な印象を伝えるときに使います。①**sound like** ～は「～のように聞こえる」、②**feel like** ～は「～のような気がする」、③**seem like** ～は「～のように思われる」という意味です。

◆**補足**：**look like** の後ろには名詞 (a ship など) が来ますが、You look happy. (あなたは幸せそうに見えます) のように、後ろに形容詞が来るときは **like** は不要です。この使い分けはとても重要なので、しっかりマスターしましょう。

4.

解答 ①

【解説】

正解は①「まず第一に」です。スピーチや説明を始めるときに、これから話すことの中で最も重要な点や、最初に行うべき手順を示すのに使われます。First of all, let me introduce myself. (まずはじめに、自己紹介をさせてください) のように使います。②「とうとう」は **at last** や **finally**、③「時々」は **sometimes**、④「結局は」は **after all** です。

◆**補足**：**first of all** と似た表現に **first** や **firstly** があります。どれも「最初に」という意味ですが、**first of all** は「たくさんあることの中で、これが一番最初」という点を強調するニュアンスがあります。

5.

解答 ④

【解説】

正解は④の **in the middle of** です。「～の真ん中に、～の最中に」という意味です。場所的な中央だけでなく、時間的な「真っ最中」を表すこともできる便利な表現です。There is a beautiful fountain in the middle of the park. (公園の真ん中に美しい噴水がある)。He is in the middle of an important meeting. (彼は重要な会議の最中です)。①は「～の前に」、②は「～にもかかわらず」、③は「～の代わりに」という意味です。

◆**補足**：**middle** は「中央、真ん中」を意味する名詞です。**middle school** (中学校) や **the Middle East** (中東) のように、他の単語と組み合わさって使われることも多いです。

6.

解答 ①

【解説】

正解は①「～のにおいがする」です。動詞です。Something smells good in the kitchen. (台所で何かいいにおいがする) のように使います。②「～の味がする」は taste、③「～のように見える」は look、④「～のように聞こえる」は sound です。これらは五感を表現する重要な動詞の仲間です。

◆補足：smell は「～のにおいをかぐ」という能動的な意味でも使えます。He is smelling the flowers. (彼は花のにおいをかいでいる)。また、名詞として「におい」そのものを指すこともできます。the sweet smell of roses (バラの甘い香り)。

7.

解答 ②

【解説】

正解は②の medicine で、病気やけがを治すための「薬」や、学問としての「医学」を意味します。The doctor gave me some medicine for my cold. (医者は私に風邪薬をくれた) のように使います。

①science は「科学」、③poison は「毒」、④vitamin は「ビタミン」です。

◆補足：medicine は数えられる名詞としても数えられない名詞としても使われます。いろいろな種類の薬を指すときは medicines と複数形になりますが、単に「薬」という場合は some medicine のように数えられない名詞として扱うことが多いです。

8.

解答 ③

【解説】

正解は③の mysterious です。There was a mysterious light in the sky. (空に不思議な光があった) のように使います。①famous は「有名な」、②serious は「まじめな、深刻な」、④dangerous は「危険な」という意味です。

◆補足：mysterious は、名詞の mystery (謎、ミステリー) の形容詞形です。The police are trying to solve the mystery. (警察はその謎を解こうとしている)。mystery と mysterious をセットで覚えるのがおすすめです。

9.

解答 ③

【解説】

正解は③の artist で、「芸術家、アーティスト」を意味します。他の選択肢を見てみましょう。

①teacher は「先生」、②scientist は「科学者」、④pianist は「ピアニスト」です。ピアニストも芸術家の一種ですが、より広い範囲をカバーするのが artist です。

◆補足：artist は、名詞の art（芸術、美術）に、「～する人」を表す接尾辞-ist が付いてできた単語です。同じように-ist が付く職業には、novelist（小説家）や dentist（歯医者）などがあります。

10.

解答 ④

【解説】

正解は④の training です。He is in training for the next match.（彼は次の試合に向けてトレーニング中です）のように使います。①travel は「旅行」、②trial は「試み、裁判」、③track は「小道、（競技場の）トラック」です。

◆補足：training は、動詞 train（訓練する）の動名詞形です。この train は「電車」という意味の名詞と全く同じスペルと発音ですが、意味は異なります。文脈でどちらの意味かを判断することが大切です。

11.

解答 ④

【解説】

正解は④「自然の、生まれつきの」です。natural は、人の手が加わっていない、ありのままの状態を表す形容詞です。また、努力して身につけたものではなく、もともと持っている才能や性質を指して「天性の」という意味でも使われます。It is natural for children to ask questions.（子供が質問するのは自然なことだ）のように使います。①「普通の」は normal や ordinary、②「特別な」は special、③「国の」は national です。

◆補足：natural は、名詞の nature（自然）から派生した言葉です。また、副詞形は naturally（自然に、生まれつき）となります。nature → natural → naturally という単語のファミリーを意識すると、語彙を効率的に増やせます。

12.

解答 ①

【解説】

正解は①の use で、「～を使う、利用する」という意味の動詞です。May I use your pen?（あなたのペンを使ってもいいですか？）のように使います。②have は「～を持っている」、③make は「～を作る」、④need は「～を必要とする」という意味です。

◆補足：use は名詞としても使われ、その場合は「使用、利用」という意味になります。ただし、発音が動詞の「ユーズ」とは異なり、「ユース」と濁らない音になるので注意が必要です。the use of smartphones（スマートフォンの使用）。

13.

解答 ③

【解説】

正解は③の **more and more** です。More and more students are studying abroad. (ますます多くの学生が留学している) のように、人や物の数が増えることを示すときによく使われます。①one by one は「一人ずつ」、②step by step は「一歩ずつ」、④all the time は「いつも」という意味です。

◆補足：この「比較級 and 比較級」の形は、他の形容詞や副詞でも使えます。The story became more and more exciting. (物語はますます面白くなった) や It is getting warmer and warmer. (だんだん暖かくなってきている) など、様々な変化を表現できて便利です。

14.

解答 ④

【解説】

正解は④の **useful** です。A smartphone is a very useful tool. (スマートフォンはとても便利な道具だ) のように使います。他の選択肢を見てみましょう。①useless は useful の反対で「役に立たない」。②used は「使われた、中古の」。③easy は「簡単な」という意味です。

◆補足：useful は、名詞の use (使用、役立つこと) に、full (～に満ちた) が組み合わさってできています。「使い道でいっぱい」とイメージすると意味を捉えやすいですね。

15.

解答 ④

【解説】

正解は④の **usual** です。I met him at the usual place. (私はいつもの場所で彼に会った) のように使います。①special は「特別な」で、usual とは反対のニュアンスを持ちます。②same は「同じ」、③useful は「役に立つ」という意味です。

◆補足：as usual という形で「いつも通り」という副詞句として非常によく使われます。She came to school late as usual. (彼女はいつも通り学校に遅刻してきた)。副詞の usually (たいてい、ふつう) も頻度を表す重要な単語なので、合わせて覚えておきましょう。

16.

解答 ①

【解説】

正解は①「～を身につける」です。He quickly put on his jacket and went out. (彼は素早く上着を着て外出した) のように使います。②「～を脱ぐ」は take off ～、③「～を試着する」は try on ～、④「～を置く」は put down ～です。

◆補足：「身につける」という動作を表す put on に対し、身につけている「状態」を表すときは wear という動詞を使います。He is wearing a nice hat. (彼は素敵な帽子をかぶっている)。この二つの使い分けは、テストでも頻繁に問われる重要ポイントです。

17.

解答 ③

【解説】

正解は③「心、精神、頭脳」です。Keep your body and mind healthy. (身体と心を健康に保ちなさい) のように使います。①「身体」は body、②「健康」は health、④「性格」は character や personality がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：mind は動詞として「～を気にする、嫌がる」という意味で使われることも非常に多いです。特に、Do you mind if I ...? (～してもよろしいですか?) という許可を求める丁寧な表現は重要です。この質問に対し、「はい、どうぞ」と許可する場合は No, not at all. (いいえ、全く気にしません) と No で答えるのが自然です。

18.

解答 ③

【解説】

正解は③の cross で、「～を横切る、渡る」という意味の動詞です。You should look both ways before you cross the street. (道を渡る前には左右両方を見るべきです) のように使います。①close は「～を閉じる」、②crash は「衝突する」、④walk は「歩く」という動作そのものを指します。

◆補足：名詞の cross は「十字架、十字」を意味し、Red Cross (赤十字) などで知られています。また、crossing や crosswalk は「横断歩道」を意味します。動詞の cross と関連付けて覚えましょう。

19.

解答 ③

【解説】

正解は③の safely です。The cat climbed down the tree safely. (その猫は安全に木から下りてきた) のように使います。他の選択肢を見てみましょう。①safe は「安全な」という形容詞、②safety は「安全」という名詞、④save は「～を救う」という動詞です。

◆補足：safe（形容詞）、safely（副詞）、safety（名詞）のように、同じ語源を持つ単語が品詞によって形を変える例はたくさんあります。それぞれの単語の働き（品詞）を意識することで、より正確な英文が作れるようになります。

20.

解答 ④

【解説】

正解は④の ground です。また、playground（運動場）のように、特定の目的で使われる土地を指すこともあります。他の選択肢を見てみましょう。①floor は建物の「床」、②land は海と対比した「陸地」や、国や所有地といったより広い範囲の土地、③sky は「空」を意味します。

◆補足：underground という単語は、under（～の下）と ground（地面）が組み合わさってできています。「地下の」という形容詞や、「地下鉄」という名詞として使われる便利な言葉です。

21.

解答 ①

【解説】

正解は①「甘い」で、形容詞です。This orange is very sweet.（このオレンジはとても甘い）のように使います。他の選択肢は、②「しょっぱい」が salty、③「すっぱい」が sour、④「苦い」が bitter で、それぞれ異なる味を表します。

◆補足：sweet は、名詞の sweets の形で「甘いお菓子」を意味することもあります。また、人の性格や言動が「優しい、親切的な」ことを表すのにも使われ、That's sweet of you.（ご親切にありがとうございます）は感謝を伝える定番のフレーズです。

22.

解答 ①

【解説】

正解は①「農場、農園」です。I worked on a farm during the summer vacation.（私は夏休みの間、農場で働いた）のように使います。②「工場」は factory、③「庭園」は garden、④「牧草地」は pasture などがそれぞれ適切な単語です。

◆補足：farm で働く人は farmer（農家、農業経営者）、そこで作られる農産物は farm products と呼ばれます。また、動詞として farm は「農業を営む」という意味になります。

23.

解答 ③

【解説】

正解は③の news です。他の選択肢を見てみましょう。①note は「メモ、覚書」、②noise は「騒音、雑音」、④paper は「紙」の他に「新聞」という意味もありますが、「ニュース」という情報そのものを指すのは news です。

◆補足：news は、見た目は複数形のようにですが、数えられない名詞として扱います。そのため、常に単数扱いで、動詞も is や was を使います。The news is interesting. (そのニュースは興味深い)。「一つのニュース」と言いたいときは、a piece of news のように数えます。

24.

解答 ②

【解説】

正解は②の try on ～で、「～を試着する」という意味です。You can try on the shoes in front of the mirror. (鏡の前でその靴を試着できますよ) のように使います。①put on ～は「～を身につける」、③turn on ～は「(スイッチ)を入れる」、④try out ～は機能などを「試してみる」という意味です。

◆補足：try (試す) と on (身につけて) が組み合わさって「試着する」という意味になっていると考えると、覚えやすいですね。お店で「試着してもいいですか?」と尋ねるなら Can I try this on? ということができます。

25.

解答 ③

【解説】

正解は③の increase で、「増える、増加する」という意味の動詞です。The number of tourists is increasing every year. (観光客の数は毎年増加している) のように使います。他の選択肢を見てみましょう。①include は「～を含む」、②invite は「～を招待する」、④decrease は「減る、減少する」という意味で、increase の正反対の言葉です。

◆補足：increase は「増加」という名詞としても使われます。その場合、アクセントは前の in に置かれることが多いです (動詞の場合は後ろの crease にアクセント)。There was a large increase in sales. (売上が大幅に増加した)。

26.

解答 ①

【解説】

正解は①の inside で、「～の中に (で)、～の内側に (で)」という意味で、場所を表す前置詞です。It started to rain, so we went inside the house. (雨が降り始めたので、私たちは家の中に入った) のよう

に使います。②outside は「～の外に」で inside の反対語、③beside は「～のそばに」、④under は「～の下に」という意味です。

◆補足：inside は「内部に」という副詞や、「内部の」という形容詞としても使うことができます。What's on the inside? (内側には何があるの?) のように、文脈によって働きが変わる便利な単語です。

27.

解答 ②

【解説】

正解は②の cover で、「～を覆う、包む、かぶせる」という意味の動詞です。Please cover the food with a cloth. (食べ物に布をかぶせてください) のように使います。①close は「～を閉じる」、③wear は「～を身につけている」、④put は「～を置く」という意味です。

◆補足：名詞としての cover は「(本の) 表紙」や「ふた」という意味で使われます。The book has a beautiful cover. (その本は表紙が美しい)。動詞と名詞、両方の使い方を覚えておきましょう。

28.

解答 ②

【解説】

正解は②の be made from ～で、製品が元の形をとどめない「原料」から作られていることを示します。例えば、Cheese is made from milk. (チーズは牛乳から作られる) のように、牛乳が加工されてチーズになる場合に使います。①be made of ～は、机が木でできているように、見た目で「材料」が分かる場合に使います。③be made in ～は「～製である」と作られた場所、④be filled with ～は「～で満たされている」という意味です。

◆補足：be made from ～と be made of ～の使い分けはテストでもよく問われます。「from はfrom 変化」のように、元の形から変化してしまったら from、と覚えるのも一つの方法です。

29.

解答 ④

【解説】

正解は④「メニュー、献立」です。Let's look at the menu. (メニューを見ましょう) のように使います。①「勘定書」は bill (米語では check と同)、②「領収書」は receipt、③「注文」は order がそれぞれ適切な単語です。これらはレストランでよく使う言葉なので、セットで覚えておくと便利です。

◆補足：menu は、元々はフランス語で「詳細なリスト」といった意味でした。今ではコンピュータの操作画面に表示される項目リスト (メニューバーなど) の意味でも広く使われています。

30.

解答 ①

【解説】

正解は①「快適な、心地よい」で、形容詞です。These shoes are very comfortable to walk in. (この靴は歩くのにとっても快適です) のように使います。②「不快な」は uncomfortable で、否定の接頭辞 un-がついた反対語です。③「有名な」は famous、④「注意深い」は careful です。

◆補足：comfortable の名詞形は comfort (快適さ、慰め)、副詞形は comfortably (快適に) です。単語のファミリーとして一緒に覚えておくと、語彙力がぐんとアップしますよ。

31.

解答 ②

【解説】

正解は②「～のように聞こえる」です。sound like ～は、聞こえてくる音や、話の内容から受けた印象が「～のようだ」と述べるときに使います。Your plan sounds like fun. (あなたの計画は楽しそうですね) のように、相手の話への相づちとしても頻繁に使われます。①は look like ～、③は taste like ～、④は smell like ～で、それぞれ五感の異なる働きを表します。

◆補足：look, sound, smell, taste, feel などの五感を表す動詞は、後ろに like を伴うと名詞が、like がないと形容詞が続くのが基本ルールです。It sounds difficult. (それは難しそうですね) との違いも理解しておきましょう。

32.

解答 ③

【解説】

正解は③の a little で、「少し、やや」という意味を表します。I feel a little cold. (少し寒いです) のように、形容詞や副詞の前に置いて、その程度を軽くする働きがあります。他の選択肢を見てみましょう。①a few は「少数の」という意味で、数えられる名詞の前に置きます。②a lot や④so much は「たくさん」の逆の意味になります。

◆補足：a little は数えられない名詞の前に置いて「少量の～」という意味でも使われます (例:a little sugar)。これに対し、数えられる名詞には a few を使います (例:a few books)。この使い分けは非常に重要です。

33.

解答 ③

【解説】

正解は③の **hiking** です。他の選択肢は、①**walking** が「歩くこと」、②**running** が「走ること」、④**camping** が「キャンプ」と、それぞれ異なるアクティビティを指します。

◆補足：「ハイキングに行く」は **go hiking** と表現します。これは **go shopping**（買い物に行く）や **go fishing**（釣りに行く）などと同じ **go -ing**（～しに行く）のパターンです。**We are going to go hiking this weekend.**（私たちは今週末、ハイキングに行く予定です）。

34.

解答 ②

【解説】

正解は②の **bright** で、「明るい、輝いている、光っている」という意味の形容詞です。**The stars are very bright tonight.**（今夜は星がとても明るい）のように使います。①**dark** は「暗い」で、**bright** の反対語です。③**light** は名詞の「光」や形容詞の「軽い」が主な意味です。④**right** は「正しい、右」という意味です。

◆補足：**bright** は人の性格が「利口な、頭の回転が速い」ことを表すのにも使われます。**He is a bright student.**（彼は賢い生徒だ）のように使います。また、**a bright idea** で「名案」という意味にもなります。

35.

解答 ③

【解説】

正解は③「乾いた」です。**Please use a dry towel.**（乾いたタオルを使ってください）のように使います。①「ぬれた」は **wet** で、**dry** の正反対の言葉です。②「冷たい」は **cold**、④「暖かい」は **warm** です。

◆補足：**dry** は「～を乾かす」という動詞としても使えます。**A hair dryer** は「髪(hair)を乾かすもの(dryer)」ですね。また、**y** で終わる形容詞なので、比較級は **drier**、最上級は **driest** と、**y** を **i** に変えて **-er, -est** を付けます。

36.

解答 ①

【解説】

正解は①「自然に、生まれつき」です。副詞です。**She is naturally good at sports.**（彼女は生まれつきスポーツが得意だ）のように使います。②「全国的に」は **nationally**、③「特に」は **especially**、④「注意深く」は **carefully** がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：naturally は、形容詞の natural（自然の）に-ly が付いてできた副詞です。nature（自然）→natural（自然な）→naturally（自然に）という単語のファミリーをまとめて覚えると、語彙力がアップしますよ。

37.

解答 ③

【解説】

正解は③の full で、「いっぱい、満ちた」という意味の形容詞です。「おなかがいっぱいの」という意味でも非常によく使われます。No more for me, thank you. I'm full.（もう結構です、ありがとう。おなかいっぱいです）は食事の場面で便利な表現です。他の選択肢は、①few が「(数が) ほとんどない」、②free が「自由な、空いている」、④empty が「空の」という意味で、full の反対語です。

◆補足：前の問題に出てきた be full of ～（～でいっぱいである）は、この full を使った重要な熟語です。また、ガソリンスタンドで「満タンにしてください」と頼む時は Fill it up, please.と言いますが、この fill は full の動詞形で、「～を満たす」という意味です。

38.

解答 ①

【解説】

正解は①「丘、小山」です。Our school stands on a small hill.（私たちの学校は小さな丘の上に建っています）のように使います。②「谷」は valley、③「崖」は cliff、④「洞窟」は cave がそれぞれ適切な単語です。

◆補足：hill と mountain の区別は感覚的なものですが、一般的には、頂上まで歩いて簡単に登れるようなものが hill、登るのにある程度の装備や体力が必要なものが mountain というイメージです。

39.

解答 ②

【解説】

正解は②の when to do で、「いつ～すべきか」という意味を表します。I don't know when to call him.（いつ彼に電話をしたらよいかわからない）のように、文の中で名詞のような働きをします。他の選択肢は、①what to do が「何をすべきか」、③how to do が「どのようにすべきか（～の仕方）」、④where to do が「どこで～すべきか」と、それぞれ異なる疑問を表します。

◆補足：この「疑問詞 + to 不定詞」の形は、会話でも文章でも非常によく使われる重要表現です。what, when, where, how, which などの疑問詞と to 不定詞を組み合わせることで、様々な意味を表すことができます。

40.

解答 ④

【解説】

正解は④の pick です。Let's go and pick some flowers. (花をつみに行きましょう) のように使います。他の選択肢は、①pull が「～を引く」、②push が「～を押す」、③plant が「～を植える」という意味です。

◆補足：pick には「～を選ぶ」という意味もあります。Pick a card. (カードを一枚選んでください)。次の単語の choose と似ていますが、pick の方がより気軽に、直感的に選ぶニュアンスがあります。また、pick up という熟語は「拾い上げる」や「(人を) 車で迎えに行く」など、多くの意味を持つので重要です。

41.

解答 ③

【解説】

正解は③の cherry です。他の選択肢は、①apple が「リンゴ」、②orange が「オレンジ」、④grape が「ブドウ」と、それぞれ別の果物です。

◆補足：日本の春の風物詩である「桜の花」は cherry blossoms と表現するのが一般的です。blossom は（特に果樹の）花を意味します。お花見は cherry blossom viewing と説明できます。cherry の複数形は y を ies に変えて cherries となります。

42.

解答 ②

【解説】

正解は②の leg です。他の選択肢は、①arm が「腕」、③head が「頭」、④hand が「手」と、それぞれ体の異なる部分を指します。

◆補足：日本語では「あし」というと足首から下の部分も含むことがありますが、英語では leg (太ももから足首まで) と foot (足首から先) を区別します。My legs are tired from walking. (歩いて脚が疲れた) のように使います。

43.

解答 ④

【解説】

正解は④の **person** です。単数形で使います。他の選択肢を見てみましょう。①**people** は **person** の複数形で「人々」を意味します。②**human** は「(動物などと対比した) 人間」という、種としてのニュアンスが強い言葉です。③**someone** は「誰か」という不特定の人物を指します。

◆補足： **person** の複数形が **people** であるという点は非常に重要です。 **one person** (一人)、 **two people** (二人)、 **many people** (多くの人々) のように使います。基本的に **persons** という形は使いませんが、法律の条文など、非常に改まった場面で「～名様」というニュアンスで使われることがあります。

44.

解答 ④

【解説】

正解は④「スマートフォン」です。日本語と全く同じように使われます。 **smart** (賢い) と **phone** (電話) が組み合わさった言葉ですね。①「固定電話」は **landline phone**、②「公衆電話」は **public phone**、③「携帯電話」は **cell phone** が一般的な言い方です。

◆補足： **smartphone** を略して **smart phone** とスペースを空けて書くこともあります。現代では **cell phone** (携帯電話) と言うと、この **smartphone** を指していることがほとんどですね。

45.

解答 ②

【解説】

正解は②「土台、基礎、基地」です。 **base** は、建物の下部を支える「土台」や、考え方の「基礎」、そして軍隊や探検隊などの活動の拠点となる「基地」など、様々なものの根本となる部分を指します。③「中心」は **center**、①「てっぺん」は **top**、④「側面」は **side** です。

◆補足：野球で使われる「ベース (塁)」もこの **base** です。 **first base** (一塁) や **home base** (本塁) のように使いますね。また、 **be based on** ～という形で「～に基づいている」という意味の重要な熟語としても使われます。 **This movie is based on a true story.** (この映画は実話に基づいています)。

46.

解答 ①

【解説】

正解は①「～のおかげで」です。 **Thanks to you, our team won the game.** (あなたのおかげで、私たちのチームは試合に勝った) のように使います。②は **in spite of** ～、③は **instead of** ～、④は **in addition to** ～がそれぞれ近い意味を持つ表現です。

◆補足：thanks to は、皮肉の意味を込めて「～のせいで」と悪い結果について使われることも稀にあります。基本的にはポジティブな文脈で使われると覚えておきましょう。Thank you for ～（～してくれてありがとう）と混同しないように注意しましょう。

47.

解答 ④

【解説】

正解は④の back で、体の部分としての「背中」や、物の「後ろ、裏側」を意味する名詞です。I have a pain in my back.（背中が痛い）のように使います。他の選択肢は、①face が「顔」、②hand が「手」、③foot が「足」と、それぞれ体の異なる部位を指します。

◆補足：back は「後ろへ」という意味の副詞としても非常によく使われます。go back（戻る）、look back（振り返る）など、多くの動詞と組み合わせる重要な熟語を作ります。名詞と副詞、両方の使い方に慣れておきましょう。

48.

解答 ①

【解説】

正解は①「まじめな、深刻な」です。serious は、人の態度が「本気である、まじめである」ことや、問題や病気などが「深刻である、重大である」ことの、二つの主な意味合いで使われる形容詞です。This is a serious matter.（これは深刻な問題です）のように使います。②「静かな」は quiet、③「親切な」は kind、④「賢い」は wise や smart です。

◆補足：会話の中で相手に Are you serious? と尋ねると、「本気で言ってるの?」「うそでしょ?」といった、驚きや疑いを表す決まり文句になります。映画やドラマでもよく聞くフレーズですよ。

49.

解答 ④

【解説】

正解は④「電子書籍」です。e-book は electronic book の略で、スマートフォンやタブレット、専用のリーダーなどで読むデジタル形式の本のことです。E-books are convenient because you can carry many of them on one device.（電子書籍は一つの端末でたくさん持ち運べるので便利です）のように使います。①「絵本」は picture book、②「交換日記」は exchange diary、③「教科書」は textbook です。

◆補足：e- は electronic（電子の）の略で、e-mail（電子メール）が最もよく知られていますね。他にも e-commerce（電子商取引）や e-money（電子マネー）など、様々な言葉で使われています。

50.

解答 ④

【解説】

正解は④の energy です。After a good sleep, I'm full of energy. (よく眠ったので、元気いっぱいです) のように使います。①power は「力、能力、電力」、②force は「(物理的な) 力」、③feeling は「感情」という意味です。

◆補足：energy の形容詞形は energetic (エネルギッシュな、精力的な) です。He is an energetic person. (彼はエネルギッシュな人だ)。また、環境問題に関連して solar energy (太陽エネルギー) や energy saving (省エネ) といった言葉もよく使われます。
